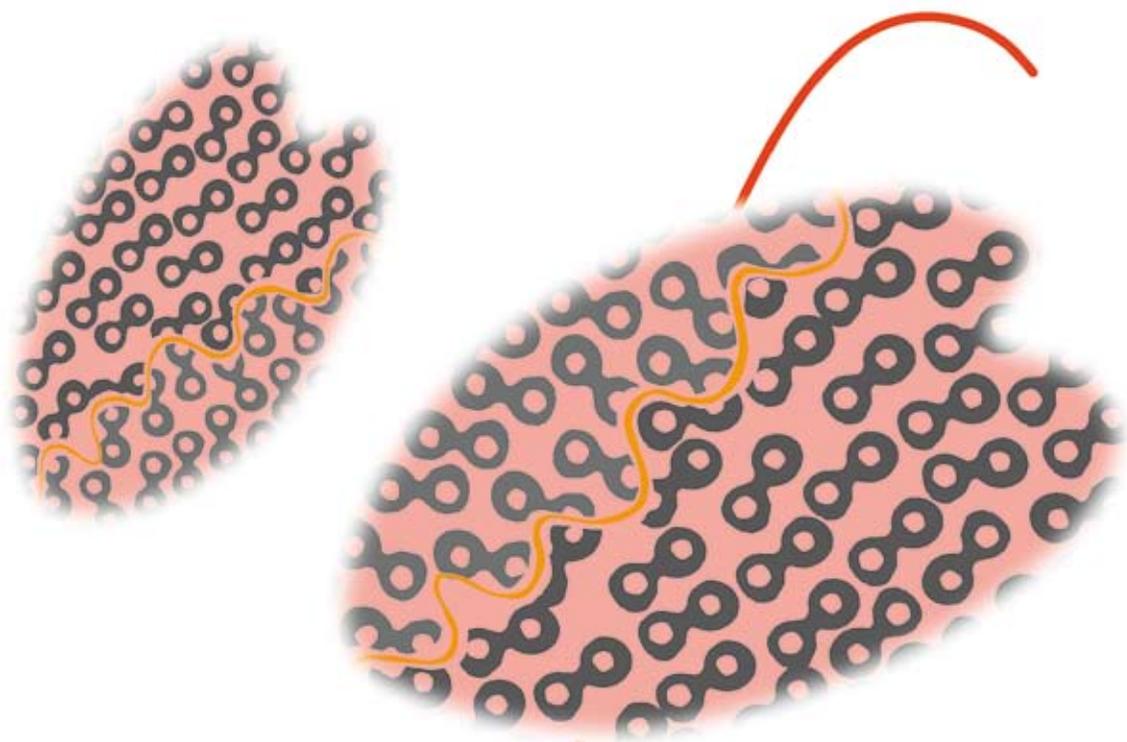


NBF

Information

2010
Summer
No.38



- ◆名手訪問／対談 片山幽雪（能シテ方）
- ◆特集／日本舞踊ロシア公演
ロシア／V.P. マズーリク
モスクワ大学付属アジアアフリカ
諸国大学日本文学科助教授
現地メディア論評、反響
- ◆講演会／琵琶とわたし 須田 誠舟
- ◆日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る⑭
東京大学文学部 教授 古井戸秀夫
- ◆理事会・評議員会報告、役員等名簿
- ◆平成21年度 正味財産増減計算書
- ◆特別会員芳名
- ◆NBF活動報告・行事予定

名手

訪問

片山幽雪 (かたやまゆうせつ)

対談 片山幽雪 (能シテ方)

西川扇藏 ((財)日本舞踊振興財団理事長)

[敬称略]



2010年5月20日 (於：片山幽雪氏宅稽古場)

西川 京都は憧れの地でそう年中來れるわけではないのですが、今日はまた先生にお会いできることも相まって本当に嬉しく存じます。

片山 遠いところをわざわざお出向きいただきまして恐縮に存じます。私のようなものでお役に立てるのかどうか心配しております。

西川 とんでもありません。由緒ある能楽のお家に生まれ育った先生の越し方を是非お伺いしようと思っております。

片山 西川先生は確か私より二つほど年高でしたでしょうか。大体同世代の我々はさまざまなことを体験してきましたね。

西川 関西と東京では状況は違っていたでしょうが、昭和初期から戦争を経て戦後の復興を目の当たりにしてきたわけですね。

片山 そうですね。私は子供の頃は余り丈夫ではなかったのですが、小さい時分に舞台上で踏んだ役はさほど多くはないのです。

西川 そうだったのですか。それでもお稽古はなさっていたのですね。

片山 はい、稽古をはじめたのは三つか四つの頃からです。

西川 それは先代でいらしたお父様からですね。

片山 はい、そうなんです。しかし父(片山博通=八世片山九郎右衛門)は稽古場ではそんなにスパルタではなかったですね。どちらかといいますと母(四世井上八千代=井上愛子)から厳しく言われました。

西川 井上先生には日本舞踊界の大先輩として何かとお世話になりました。

片山 私が仕舞のお稽古を付けていただいていたので間違えたりすると母からはよく叩かれました。

西川 芸に妥協なさらぬ厳格な先生でしたから、相手が幼い子供といえども容赦しなかったのでしょうかね。仰る通りでございますね。そうしているうちに6歳で初舞台ということになりました。

伝統芸能の世界ではお立場のある

方は大体5、6歳で初舞台を務められますね。

片山 曲がりなりにもでしたが何とかやらせていただきました。先生もそのくらいの年齢でいらっしやいましたか？

西川 はい、常磐津の「かつを売り」という短い曲でした、満年齢で6歳だったと思います。

片山 ということは我々は70年以上舞台に立っているわけですね。

西川 そうですね、お互いに。

片山 観世流の今の宗家は二十六世ですが、私は先々代に当たる二十四世宗家に一度だけ習っております。

西川 かなり前のことでしょうね。

片山



私が9歳位だったと思います。後に二十五世宗家になる元正さん、この方は私と同じ年なんです。この方は私と同じ年なんです。私が「岩船」を上演すると

聞きまして、偶然私も「岩舟」で初のシテとして舞台にかけるときだったので、お稽古をご一緒にお願いをいたしました。

西川 東京までいらしたのですね。

片山 はい、お稽古は東京に伺いました。何とか晴れて東京と京都で「岩船」が上演されたのです。

しかし二十四世の宗家は程なくして亡くなってしまいました。

私がお稽古をしていただいたのは最初で最後になってしまいました。

西川 それはさぞ残念なことでしたですね。

片山 そうですね。それから戦争中は京都で比較的のんびりと過ごしました。

西川 東京は何度も空襲を受けましたし、広島や長崎は原爆の被害に遭いました。忌まわしい戦争でしたが、京都は戦争の被害は少なかったのでしょうか。

片山 何ともいえません。学童疎開などもあったようですので、相応に大変な時代だったのではないのでしょうか。

西川 すでに戦後65年が経過していま

す。あの戦争をリアルタイムで体験した世代がかなり減っています。風化させてはいけませんね、絶対に。きちんと伝えておかないではならないですね。

西川 そうですね、とともに二度と戦争は起こしてはいけない、ということも訴えなくてははいけないのでしょうか。

片山 仰る通りです。

戦後世の中がいくらか落ちついて私も本格的に勉強をしなくてははいけないということで、東京へ出向くこととなります。

西川 その頃はまだ東京と京都の間は年中行き来できるような近さではありませんでしたね。

片山 われわれ関西の人間は東京はものすごく遠いという印象がありました。

西川 そうでしょうね、新幹線はおろか特急もなかった時代ですから。今の感覚で言うと近隣の外国へ行くようなものですね。

片山 ともあれ観世流の華雪先生（観世鏡之丞家六世当主）のところにしてお稽古に行くようになりました。むろん父とも相談の上でございます。

西川 確か多摩川でございましたね。

片山 はい、戦後、多摩川に華雪先生がお住まいになっていた東横の能楽堂がございましてそこへ毎月通うようになります。

西川 東京へ毎月ですか、大変なことでしたね。

片山 寝台列車の銀河に夜の11時くらいに乗って朝東京に着きます。東京駅に銭湯があってそこで一風呂浴びてから、渋谷へ回って東横線に乗って多摩川へ行きました。

西川 そういう時代でしたね。私どもも夜行列車はよく利用いたしました。京都へ行きますとタワーの下にある大きな銭湯に入りました。それで東京へはどのくらい通われたのでしょうか。

片山 かれこれ30年くらい伺いましたでしょうか。しかしちっとも上達しないので先生もやきもきされたことでしょうか。

西川 いやいや積み重ねのご精進に敬服いたしております。

片山 能は古典の演目が200番しかない
ので、30年も通っていたらとっ
くに終わってはいけません。
（笑）

西川 当時の東京は能楽堂もずいぶん戦
災で焼けてしまったようでしたが。
片山 そうなんです。だからいろいろな
方が多摩川にいらしていました。
西川 そうだったのですか。
片山 有名な野口兼資先生もいらしてい
て、お稽古をつけていらっしゃる
様子を何度か拝見しております。
西川 それは貴重なことですね。
片山 或るとき、野口先生がお稽古で、
ご自身の真後ろにおられるお弟子
さんに「目線が違う」と注意され
ました。
西川 心眼でしょうか。
片山 まさかねえ。でも私はびっくりい
たしまして、名人の方は目に見え
ないものも見えるのかな、と感動
いたしました。（笑）

西川 野口先生は宝生流の方ですね。
片山 はい、当時は終戦後の異常事態で
すので本来は流儀を越えて同じ舞
台で稽古をすることはないので
すが、我々若い者にとりましては大
変ありがたい体験でした。
西川 ともあれ戦後先生は観世華雪先生
のもとで修業を積み重ねられたわ
けですね。
片山 ええ、その後華雪先生のお具合が
悪くなられてからは雅雪先生（観
世鍔之丞家七世当主）、に師事いた
しました。
西川 華雪先生と雅雪先生とは教え方等
は違いましたでしょうか。
片山 根本的には同じでしょうね。ただ
華雪先生は言葉でご説明をなさる
方でしたが、雅雪先生は良く叩か
れていましたね。
西川 口で言うより手の方が早い、ですね。
片山 もっとも私たちには叩くことはなさ
らなかったですね。身近な同門のお
弟子さんたちに限ってでしたが。
西川 現在の先生の芸格の基礎は東京で
仕込まれたということですね。
片山 そうでしょうねえ。京都で育った
私は最初東京の方の話している会
話についていけませんでした。早
口ですし、乱暴ですしねえ。（笑）

西川 京都は語り口が穏やかですからね。
片山 京都で平凡に子供時代を過ごした
私には東京はかなり刺激の強いと
ころでした。

それでも何とか三老女物のお稽古
もつけていただき、どうやら目処
がついてきたように感じました。

西川  老女物といえ
ば「関寺小町」は私
どもも文楽の住大
夫師匠に語って
いただき日本舞踊
として上演させて
いただきましたが、
その原曲の能はさ
ぞかし難曲であ
らうとお察しいた
します。

片山 「関寺小町」は私もつい数年前に披
きました。やはり老女物は難しい
ですね。

西川 老女物はどういうところに留意さ
れていらっしゃいますか？

片山 何といたしても老女の年齢より
若くして舞うわけですからいろ
いろ考えまして、ああでもない、こ
うでもないと悩みました。

西川 関寺小町は百歳ですからねえ。
片山 どうてい叶わないのです、年齢は。
ただこういった秘曲は何回か重ね
て舞うと何かヒントがあるような
気がいたします。

西川 そうですか。
片山 例えば足の運びひとつとりまし
ても、全てすり足で足を曲げない
というのも無理がありますし、つま
先をつけたまま一曲舞ったら乗り
が悪いでしょうし、自然に足が上
がるようにならなくてははいけ
ないですね。

西川 なるほど。
片山 自然と太腿全体で歩くようなこと
が必要なんですよ。しかし一
朝一夕では分かりません。最近漸
く何とか老女を演ずる心が分か
りかけたようなもので、まだまだ
です。

西川 相当奥が深いのですね。
片山 はい。「捨垣」と「姨捨」は「関寺小町」
より大分以前に披かせていただき
まして、「姨捨」は今年も舞いま
す（平成22年11月1日於：国立能
楽堂）。これで4、5回になります
か、もうできないかもしれません。

西川 そんなことはないでしょう。是非拝見したいと思います。

片山 先生もお若いと書いていましたが、もう「関寺小町」をなさるのですね。

西川 花柳壽楽先生も三年ほど前に亡くなられたものですから、日本舞踊界の男性のなかでは私も長老の部類になってしまいました。そろそろこのような難曲にも挑戦しなくてはいけないと思います。

片山 大いになさってください。それにしても先生のなさっている財団は相当お盛んに活動を続けられていらっしゃるんですね。設立されてからどのくらいになるのでしょうか。

西川 ちょうど20年になります。

片山 私が社団法人能楽協会の理事長をさせていただいていた頃、頻りに文化庁に伺っていましたが、そこで日本舞踊振興財団の評判をずいぶんと聞きました。

西川 一個人や流派だけではどうしても限界がありますし、(社)日本舞踊協会が手一杯でできないところを補うことができないかと立ち上げたわけです。

片山 日本舞踊界のために一肌脱がれたのですね、ご立派なことです。

西川 とんでもない。先生も協会の理事長はかなり長くされていらっしゃいましたね。

片山 15年ほどさせていただきました。文化庁のみならず東京へ出向く用がめっぼう増えまして、今度は新幹線がありますので便利にはなりましたが、日帰りになりましたので体の方はきつくなりました。(笑)

西川 能楽がユネスコの世界無形遺産に認定された頃も理事長の要職に就かれていらっしゃいましたね。

片山 おかげさまで日本では能が最初に認定を受けました。ユネスコの本部はパリにあるのでそこでお披露

目をしたわけですが、国からは全く補助が出なかったので難儀をいたしました。

西川 それは大変でございましたね。

片山 はい。しかしこれは名誉なことですから予算がないからといって行かない訳にもいきませんでしょ。

西川 そうですねえ。

片山 先生のところも年中外国で公演をなさっていらっしゃいますが本当に偉いと思います。

西川 とんでもない、能楽や歌舞伎の方々は戦後頻りに外国へいらして日本の伝統芸術を広められました。私どもも遅ればせながら今外国へ日本舞踊を紹介する事業を行っております。

片山 今は大分外国も行きやすくなりましたが、私たちが最初に行っていた頃はまだ円の持ち出し金額が2万円でした。

西川 1ドルが360円の時代ですね。

片山 そうですね。何か国もまたがって移動しまして、結構日数もかかりましたのでなかなか大変でした。しかしどうあれ外国へ行くことは今でもエネルギーを費やしますね。

西川 想定外のことが多いですからね。入念に準備期間を確保しましても突発事項は必ずあります。

片山 しかし挫けずに継続してなさっていらっしゃるから、いずれは世界中で日本舞踊が花開くでしょう。

西川 ありがとうございます。外国は能楽に追いつき追い越せの精神で突き進もうと思います。

片山 大いに頑張ってください。

西川 今日は貴重なお話をいただきまして感謝いたします。先生も御体にお気をつけなさいましてご活躍されるよう祈っております。どうもありがとうございます。

片山 幽雪氏 プロフィール

観世流能楽師シテ方。昭和5年八世片山九郎右衛門(博通)の長男として生まれる。母は京舞井上流四世家元井上八千代。幼少より父に師事し、5歳で初舞台。長じて観世華雪、雅雪に教えを受ける。昭和38年、片山家当主となり、昭和60年に九郎右衛門を襲名。平成2年日本芸術院賞、平成3年京都府文化功労賞、平成6年紫綬褒章、平成7年日本芸術院会員の認定

を受ける。平成8年京都市文化功労者、平成13年重要無形文化財各個指定(人間国宝)認定。平成15年京都府文化賞特別功労賞、平成21年文化功労者。(社)能楽協会前理事長(平成3年~19年)、(財)片山家能楽・京舞保存財団理事長。観世流の隆盛に貢献したとして、観世宗家より雪号と呼ばれる雅号「幽雪」を授与され、平成22年1月より片山幽雪を名乗る。